

# あの手 この手

8月号  
2020

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第157号 2020年8月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行



ペテルギウス玄関  
8月4日の生け花



表紙絵: 「やまと国際フレンドクラブ」主催の  
やまと国際アートフェスタ 入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは “2030年の世界とわたし”  
バラード賞 受賞

題名 「10年後のぼく」  
エイブリー デンゼル ダリル さん  
大野原小学校 2年 (アメリカ)

エイブリー デンゼル ダリルさん  
からの <メッセージ>  
ぼくがこの絵をかいたのは、10年後、ぼくが  
こうなったらいいなと思ってかきました。  
この絵は10年後、ぼくが りく上選手になって  
大会で 金メダルを取った時 のようすです。

## オンライン(ZOOM) 第90回 共育セミナー

### 箸育(はしいく)講座

### ～いつから始める?箸トレーニング～

日時: 8月25日(火) 13:30~15:00  
講師: NPO法人 みんなのお箸プロジェクト  
礼法講師・箸文化講師 平沼 芳彩さん  
参加費: 無料  
場所: 自宅(カメラ・マイク・スピーカーが利用できるパソコン)  
又は 大和市民活動センター:会議室2で8名(先着順)  
※会議室2ではプロジェクターで映した画面を見ながらの受講となります。  
※新型コロナウイルス等の影響により、変更・中止になる場合がございます。

「子どもに正しいお箸の持ち方をしてほしいけど、  
いつから、どうやって練習したらいい？」

お箸の歴史や文化も学びながら、  
お箸の使い始めの時期やトレーニング  
方法、お箸の選び方、正しい持ち  
方など盛りだくさんでお届けします。



お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、  
お箸について学びたい人の参加をお待ちしています。

## 登録団体 2019年度 活動のふりかえり

2019年度を振り返って、感じたこと、思ったこと、今後につなげたいこと等をお聞きました

### 大和家族 SST 勉強会

<精神障害者(当事者)を抱える家族が SST「社会生活技能訓練」を学ぶことにより、当事者の不安や悩みを理解しコミュニケーションのとり方を学び再発を防ぐことを勉強する。>



大和市広報の市民掲示板に開催予定を載せたところ、毎回新しい方が参加された。精神障害(主に統合失調症)を家族にかかえて悩んでいる方がおられることを痛感した。医療と繋がっていらっしやなかった方も会に参加することで繋がった方もおられたり、同じ悩みを持つ者で話し合うことで、不安を一人でかかえず支え合うことの大切さを実感した。講師から当事者とのコミュニケーションのとり方等を学ぶことができたことも、日々の生活上役立った。1回のみでなく続けて参加することで心の安定も得られ、家族関係も安定できたと思う。

### 杏の会'18

<朗読の学習、レベルアップをはかるボランティアでの読み聞かせ・朗読の発表会を行う>

会員各自の朗読の力を伸ばす。朗読ボランティアを通して、聞き手に喜ばれる朗読のし方、題材を考える等、回を重ねることで活動の方向性が、しっかりできてきたように感じている。



### P.E.T ママの会

<親と子の関係が幸せになること 親業訓練一般講座(トマス ゴードン)受講後のフォローの会>



親業を学んでから、子どもに叱りたいことがあった時、自分の気持ちを探るようになり、自分のことにも気付けるようになってきた。感情にまかせて叱ってしまう失敗もあるが、仲間と話し合うことで自分では気づけなかった新しいかかわり方がみつけられます。少しずつ前進していきたい。

### NPO法人 なんでもプラス地域ネット

<地域福祉、文化への貢献活動を行うこと  
月1回の名画サロン、酒まんじゅう作りの会>

「光陰矢の如し」です。周年事業の企画を進めることに決定して悦びの反面、責任の重さを感じています。今春は草創期から行動を共にしてきた役員や会員が他界して、高齢化の高波が目前まで迫ってきました。この地域の伝統食「酒まんじゅう」の作り人は見当たらなくなって2年前から初心者が出て来るシステムを考案してきました。周年事業は地域の伝統を継承していける最後の切り札となることを切に願っています。



### コミュニケーション“談”

<(子育て)子育てを通して自分の生き方を考えます。(健康)東洋医学の視点から健康づくりを考えます。>

コミュニケーション“談”で「ほっとすぼっと よかつ種(学校に行かない子どもらの親の会)」を始めてから20年くらい経つ。当時と比べると社会情勢は大きく変わり、メンバーの子どもたちも大きくなった。一時、

新たな参加者も無くなり、この会の当初の目的は終わったかと思いましたが、またここ数年、新たな参加者がある。参加者がある間は細々とでも続けようとメンバーでは話している。



### ハンドメイドコミュニティ

<ハンドメイドを通じてコミュニティを作る>

手づくりが好きというつながりをどれだけ楽しめるかと思いましたが、みなさんいつも「楽しかった」「また来たい」と言ってくれました。集まることを主に行っているため、今後の活動も様子を見たりスタイルをかえたりとなりそうですが、人と人がつながっていける事を考えていきたいと思っています。



東日本大震災と7月九州豪雨  
災害の経験を教訓に

地震・台風・豪雨など、毎年のように日本各地を襲う自然災害。「やまと災害ボランティアネットワーク」は災害地への復興支援を中心に、地域の防災力強化や、ボランティア参加を通じたユースの人材育成を行っています。大和市民活動センターは、代表理事の市原信行さんにインタビューの機会をいただき、コロナ禍で団体が受けた影響や、7月九州豪雨に対する団体の役割について伺いました。

1- 団体の活動内容を教えて下さい

「大和災害ボランティアネットワーク」は阪神淡路大震災をきっかけに1999年に成立しました。現在の会員は約30名で、直近では昨年の台風で被害を受けた、横浜市、川崎市、相模原市への災害支援を毎週のように行っています。

例えば相模原市では土砂災害が多かったため、余計な土砂を撤去する作業をしています。災害が落ち着いた際には、月に1回くらいの頻度で机の上で勉強する研修を行っています。

地域の防災力強化も行っています。自治会とか、子供会とか、学校に呼ばれて講演を行うこともあります。大和市では、人口に対して避難所の収容人数が足りていないことから、「各避難所を見直そう」と声かけをしています。また避難所にどんな支援物資があるのか、毛布や水などがあるのかなど、地域の人たちに考えて欲しいことをお伝えしています。

3- 団体活動へのコロナの影響は

月に一度の研修活動はコロナでの影響で全く止まっちゃいましたね。相模原や川崎の災害現場の活動でも、外出自粛があったので、困っている方々がそのままの状態です。ストップしてしまうところがありました。

作業を再開できたとしても、家の床下に入っている泥を取る時には、密になりますし、マスクしての作業は非常に辛いことがあるんですね。

また、東日本大震災で親を亡くして児童養護施設に入らざるを得なかった宮城県の子供たちを支援するために、2泊3日の自然体験学習を石巻市の網地島で開いてきましたが、それもできなくなりました。

2012年から毎年続けてきた大事な事業の一つでした。今までは網地島の方々と、児童は40人、先生方は10人、ボランティアの大学生は50人くらいで自然体験学習を開いてきました。我々のすごく大きな思いがある事業だったので、非常に残念でした。

2- 東日本大震災の被災地でも学生ボランティアが活動したそうですね

2011年東日本大震災の震災後すぐに宮城県の避難所にお邪魔させていただいて、避難者の方々と一緒に生活したことがありました。その時に、避難所にいた若い子たちが、力や知恵を発揮していたり、大人の方々に元気づけたりしていたことを僕は現場で見ました。若い子たちがそばにいてということ自体、元気になる一つの要因であると感じました。

そこで若い子たちに現状をしっかりと見てもらいたいということで、2012年から、児童が94人亡くなった「大川小学校」などに訪問させていただいています。

ボランティアの男の子と女の子たちは、実際に子供さんを亡くしたお父さんお母さんから「同じ学年の子たちがここで亡くなったんだ」という話を聞くだけでも、みんな涙するんですね。なんで防げなかったのかとか、近くの裏山へどうしていけなかったのかなど、

4- 7月九州豪雨の被災地へ支援をされているそうですね

16年の熊本地震の時に一緒に活動した方と仲良くなって、その方がたまたま球磨村で働く職員さんだった。災害の状況についてきいてみたら、「自宅の周りの車が全部陥没しちゃって、周りの状況すらわからない」と話していました。どうしようかと思いましたが、熊本での活動を続けることにしました。

被災地まで大変な距離があるので、今回の豪雨災害のお手伝いをするのは非常に難しいことです。やはり人員や資機材の確保、宿泊場所や活動拠点など、トイレ一つをとっても問題があります。その中で我々の役割の1つは、災害



7月九州豪雨への支援物資を届ける窓口として、資機材・食料・消耗品を受け付けた。



市原信行さん  
やまと災害ボランティアネットワーク代表理事として活動を支援しています。

みんなはお話を聞いていました。ボランティアに参加した子たちの中には、大学で「防災サークル」をやっていたり、「人のためになるような仕事につきたい」と、消防士になったりとか、看護師になったり、あるいは自衛隊に入ったりと、自分の就職について、人のためになることを考えてくれる子が多かったように思います。



学生ボランティアは石巻市大川小学校跡地を訪れ、献花と黙祷を行った。

に対して物資などを支援する窓口をやることです。地域の防災力には、どういう風に支援を受けるかという「受援力」を高めることが大切だと思っていますので、災害に対して支援することを経験していただき、地域の防災力を高めることも考えています。

もう1つの役割として、地域をもう一回盛り上げることも考えていきたいです。地元の方だけでなく外部の力が必要なのがあります。具体的には、細々でも見て学び、活動し、それを教訓とする。そこに特に若い人たちに参加してもらいたいと思います。

5- 市原さんが目指す「防災」とは

大和には地域で活動されている方が多くいらっしゃる中で、大和の中でも若い人たちと一緒に地域を盛り上げる活動をしてもらうと、大和市自体も盛り上がるんじゃないか感じています。僕はそこに防災を入れてもらえないかと思っています。「福祉と防災」とか「子供と防災」とか。僕の役割はそこにあると思うので、一緒に地域の盛り上がりを感じていただくと嬉しいなと思います。(サポーター尾畑翼)



令和2年度上期「一般助成」

対象事業  
障がい児・者の自立と福祉向上を目的とした各種活動。障がい児・者に対する自助・自立の支援事業。助成決定以降、原則として令和2年12月1日から事業を開始し、令和3年5月31日（半年以内）までに終了する事業

選考のポイント  
障がい児・者に対する自助・自立を支援する観点から特に有効であると判断されるもの。障がい児・者への福祉事業に従事する方々の環境の改善・向上に役立つもの。対象となる経費は、助成事業の実施に「直接必要な経費」とし、経常的に発生する管理運営費（人件費、賃借料、光熱費ほか）は、対象外。

締切：8月31日（月）  
主催：公益財団法人洲崎福祉財団  
TEL：03-6870-2019  
HP: <http://www.swf.or.jp/support1/index.html>



事業指定プログラム「エラベル」第7期の募集

募集について  
○ 2021年4月～2022年3月に行う事業活動への寄付募集です。○ 事前相談への参加が必須です。(要予約)  
○ 10月上旬にプレゼンテーション方式による選考会を開催します。  
○ 寄付募集活動は12月1日～2021年3月12日とし、登録団体と財団が共同で寄付募集活動を行います。  
○ 10月開催予定のガイダンス、12月に開催予定のキックオフ集会、6月開催予定の報告集会、また寄付期間中にエラベルイベントなどへの積極的参加をお願いします。  
○ 詳しくは、財団ホームページの募集要項をご覧ください。

締切：9月7日（月）17時まで、事前相談会必須：8月28日（金）17時まで  
主催：公益財団法人かながわ生き生き市民基金  
TEL：045-620-9044  
HP: <https://lively-citizens-fund.org/archives/2816>



スタッフのつぶやき



感染対策で銀行も受付10人規制をしています。暑い外で順番を待つのも一苦労。その帰り、私の自転車の向こうから歩いてきたおじいさん、目の前で、照り返しの道路にヘナヘナと座り込んでしまいました。直ぐにマスクを外したら「大丈夫です！歩けます…」熱中症？で貧血の様にフワッと意識が無くなったとの事でした。 望月

やっと梅雨が明けた。長かった～。狭い庭の木と草だけが元気。雨の合間に少しずつ草引きをした。どくだみは茶にするべく洗って干す…かびないように除湿器をかけた。ミョウガも採るが今までになく豊作。ミョウガは長雨が好き？ 一巡目終了！ 櫻井

Zoom 座禅会に参加した。世界中から集まった。住職は日英両言語で進める。一人一人の名を呼び姿勢をチェックする。25人×3画面？日本人からクリスチャンやムスリムに座禅を勧めてもいいものかと発言があった。住職曰く、「ZAZEN」 is not religion but practice, searching for the true self. 関根

シルバー人材センターの方からスイカをいただいたことから、将来家庭菜園をする自分を想像した。未来の僕は土を耕す機械を持っているのに、「気持ちよめなきゃ」と言いながらクワを振り下ろしていた。本当は体を動かしたいのかも。 尾畑

7月上旬に大船フラワーセンター「ハスの早期開園」に行ってきました。先月は睡蓮とハスの花が開いてなく残念な結果になりましたが、今回は見事に睡蓮もハスも元気に花が咲いていました。前回は広角レンズで持って行きましたが、花が遠すぎて撮れず、今回は望遠レンズを持っていい感じに撮れました。 吉浜

これまでは意識せずに鼻から吸って吐いていましたが、実は逆に「しっかり息を吐ききってから吸う」のだそう。試してみるとなるほど楽。そして、いつでもどこでも出来る。緊張が続く毎日に欠かせない私のおクスリ、深呼吸のお話でした。 辺見

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第157号 発行日：2020年8月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>  
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>  
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788  
e-mail:yamato@ar.wakwak.com  
<http://www.kyoudounokiyoten/>